

## 推進校別中間報告書

### 1 推進校の概要

| 推進校・推進地域名                          | 所在地           | 電話番号         | 生徒数 | 備考 |
|------------------------------------|---------------|--------------|-----|----|
| ひろしまけんりつまつながこうとうがっこう<br>広島県立松永高等学校 | 広島県福山市神村町 113 | 084-933-5141 | 589 |    |

### 2 研究課題

地域の人材を活用し，家庭や地域との連携による開かれた道德教育の充実  
高等学校における道德教育の充実

### 3 研究主題とその設定理由

「地域社会に貢献できる生徒の育成を目指した道德教育の展開」

- 総合的な学習の時間での地域の人材を活用した活動を通して -

道德教育の目標は，学校全体の教育活動を通して生徒一人一人の内面に根ざした道德性を育成することにある。また，道德教育を進めるにあたっては，家庭や地域の中での豊かな体験を活かして，生徒自らが道德的価値の自覚を深め，道德的実践力を高めていく指導の工夫が必要とされている。

本校では数年前から少子化の波の中で定員割れの状態が続き，生徒への指導機能は低下し，生徒の自己統制力は失われた状態にあった。この危機を打開するために，地域との連携，自己指導能力の育成，職業観・勤労観の育成を視野に入れた総合的な学習の時間や学校行事の見直しを行ってきた。さらに，総合的な学習の時間や学校行事の中で生徒の道德的実践力を高める取組みを積極的に取り入れていくことが，生徒に豊かな人間性を身に付けさせることにつながると考えた。

そこで，生徒の道德的価値観，勤労観，職業観を育成し，生徒が道德的実践力を高め自己の在り方生き方を主体的に探求して豊かな人間性を身に付けさせるために，学校が地域協働体制を確立し，総合的な学習の時間での地域の人材を活用した活動を通じた道德教育の進め方について研究することが本校の道德教育の充実にとって重要であると考えた。

### 4 第1年度の研究の特色及び概要

#### 【研究経過】

指定事業をすすめるにあたり 広島大学大学院文学研究科教授 越智 貢先生より指導・助言をいただいた。道德教育推進委員会を設置し，協議内容を全教職員に広めた。

#### 1 学期

- ・道德教育推進委員会の設置（校内で実施していく共通目標を設定しそれを実践していくことを確認する。それを決めたらみんなでやっていくことから始めていく。）
- ・推進委員会での議論
- ・道德教育についての教職員全体研修
- ・テーマの設定

#### 2 学期

- ・実践テーマをやっていく。ポスターの掲示。
- ・第2回道徳教育研究協議会（高等学校部会）本校にて

・学校生活アンケートの実施

3学期

・学校生活アンケートを分掌・学年会で検討し本校の課題を探る。

### 【主な研究内容】

道徳教育についての教職員全体研修 平成 16 年 8 月 23 日（月）

（講師）広島大学大学院 文学研究科教授 越智 貢 先生

松永高等学校の現状と今後の方向性について研修を行った。生徒との信頼関係を築くとともにコミュニケーションを確立し、教職員・生徒が一体となつての意識改革が必要であるとの指摘をいただいた。また、「ゴミのない学校」など学習環境を整えるとともに何をすべきかを考え、それを確実に実践することで学校は変わり、教職員・生徒の相互が高め合える授業の創造が可能になる。教職員の一挙手一投足が範であり、「わかる授業」の一層の充実と知を追求する喜びが実感できる教育の大切さを再確認した。



講師 越智 貢 先生（8月23日）



グループ学習を行う生徒（10月1日）

校内で次の3つの具体的実践項目を設定した。（教職員，生徒が共通に取り組める。）

- (1) あいさつからはじめよう。
- (2) きれいな学校私がつくる。
- (3) 学びがいのある学校づくり

第2回道徳教育研究協議会（高等学校部会）平成 16 年 10 月 1 日（金）

研究授業 教科「産業社会と人間」（第1学年4組，5組）

単元名 「職業と生活」 授業者 三島 忍教諭・桐谷 親弘教諭

ねらい 企業別グループでの自らの役割を自覚し，集団の一員として自らの責任を果たし，集団に貢献しようとする実践力を身に付けさせる。  
本時学習を通して職業生活に必要な態度を理解させ，社会生活における礼儀の意味を考察させる。

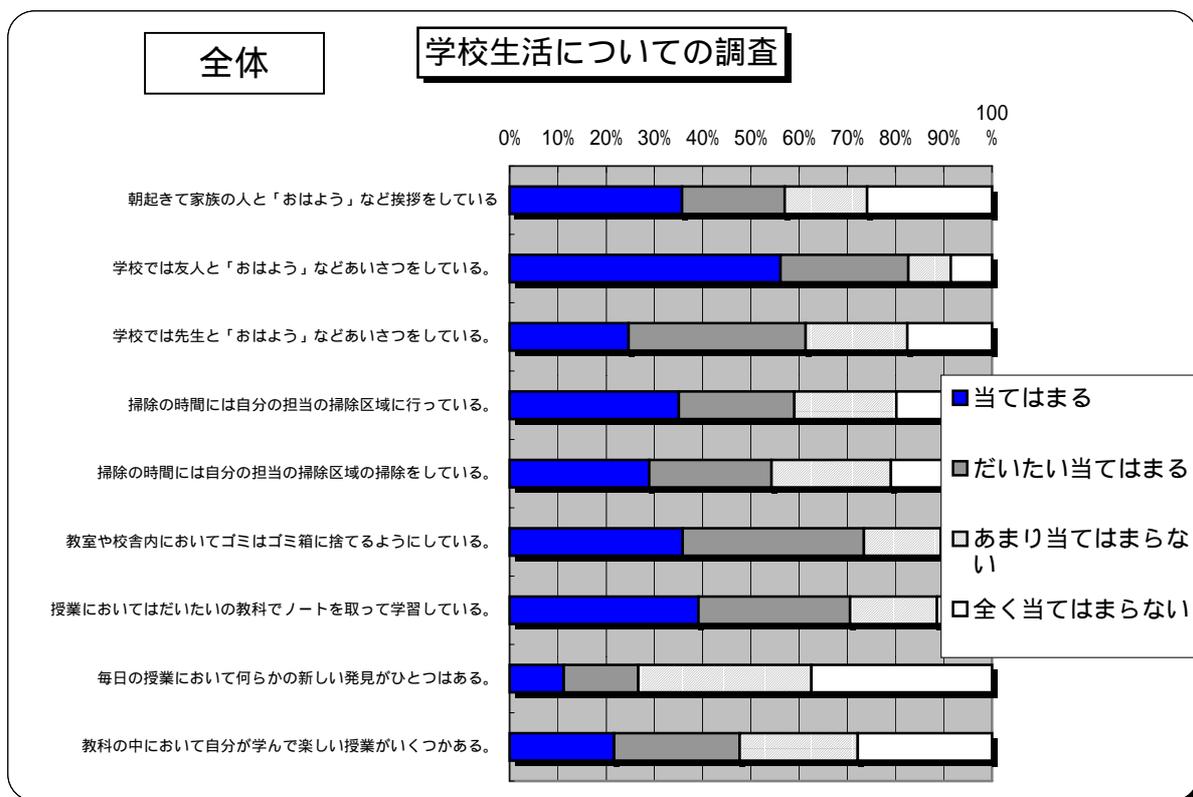
指導講話 講話者 広島大学教授 越智 貢 先生

演 題 「松永高等学校における道徳教育の進め方」

講話内容 ○これまでの取り組み ○道徳に関する授業の意味  
○道徳教育の目標の設定 ○強制力（抑止力）の視点

12月には3つのテーマ「あいさつからはじめよう」「きれいな学校私がつくる。」

「学びがいのある学校づくり」がどの程度取り組んでいるかを把握するために全学年を通じて学校生活についての調査（アンケート）を実施した。



## 5 第1年度の研究成果及び概要

平成16年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業の指定を受け研究を進めるにあたり、広島大学大学院文学研究科教授 越智 貢先生から多方面にわたる助言をいただいた。道徳教育実践についての具体的実践項目を決めたことで生徒も教職員も行動しやすくなった。

「挨拶をしよう」のテーマでは、生徒とのコミュニケーションを大切にして教職員が生徒への積極的な声かけを行った。年間通してやっている昇降口指導とともに、教職員が積極的に声をかけることで、生徒の反応もよくなり自然と挨拶が交わせる状況ができてきた。

次に「きれいな学校私がつくる」のテーマでは、教職員が率先してごみを拾っていくことから出発した。しかし毎日の清掃活動に生徒全員が取り組むところまではいたっていないのが現状であるので、そういう生徒の意識を一掃させたい。外部の方からは、「以前より校内がきれいになりましたね。」という評価もいただいている。数年前からの地域の人たちと生徒・保護者との校内外大掃除も定着してきた。

「学びがいのある学校づくり」のテーマでは、授業改善や校内のいろんな行事等を通じて生徒に自信を持たせ、自己肯定感を育む中身を創造していくことが課題である。

生徒一人一人の思いを書きとめる「心のノート」の作成については、道徳教育推進委員会で協議を重ねてきた。その中で今年度の「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」での学習活動をもとにして次年度に作成していく。

## 6 参照できるホームページアドレス

<http://www.matsunaga-h.hiroshima-c.ed.jp/>